

本日、およそ半年間に及ぶ留学を終え、日本へと帰国した。飛行機を降りると当然ではあるが季節は冬であり、悴む手を摩りながら、マレーシアでの留学生活は終わったのだと、日本へ帰ってきたのだと、自分でも不思議だったのだが、母国へ帰った嬉しさよりも、マレーシアを去った寂しさを強く感じた。

現地の学生と一つ屋根の下で暮らしながら、日々の生活の中で、彼らとの会話の中で多くの発見と刺激を得ることが出来た。彼らと過ごした六か月で、私は人間として一回り大きくなれたと実感している。最終となる二十三週目では、帰国して自分がこの留学を通して学んだ点、成長した点について箇条書きでまとめてみたい。

- ・ 全ては自分の責任において自由であるということ。言い換えれば、自分を縛るものは自分以外に無いということ。

留学をしたいと思った事は何度もあったが、その度に色々な理由で踏み留まっていた。だが留学を決意できた時、結局自分の留学したいという気持ちを妨げていたのは、自分自身だったと気付く事が出来た。そしてそれ以来、自分が「無理だ」と思った時は「それは言い訳ではないのか」と自分に問いかけるようになった。

- ・ 思い立ったら即行動すること

大抵の場合、心からの衝動と言うものは後になって考えると正しいことが多い。しかし実際は思いついてもその後で「それはやはり難しいのではないかと怖気づき、行動には移さない事が自分にはよくあった。しかし行動を起こすことはたとえ失敗しても別のチャンスに繋がっていき、自分の予想とは別の形で実現する事だってあると知った。全てに意味はあり、遠回りでも、今は意味が分からなくても、いつかどこかで実を結ぶこと、その点で失敗することは無いのだと学んだ。今でも戸惑うことは多いが、それでもやってみようと考えられるようになった。

- ・ 人の縁を大事にすること

今回の留学では不思議な人の縁によって物事がうまく進むことが多々あった。家を探す時や企業訪問をする時、全て人の縁によって目的を達成することが出来た。今回の留学で関わった方々とこれからも連絡を取り合っていき関係を大事にしたい。

- ・ 恵まれた環境へ感謝すること

日本のインフラは充実しており、奨学金で大学まで通い、あまつさえ留学まで行ける。マレーシアのように政策によって機会が減ることもなく、あくまで平等だ。素晴らしい。そしてこれらの環境を素直に素晴らしいと考えられるのはこの留学によって新たな価値を得ることが出来たからだと思う。与えられた環境に感謝し、この機会を生かしたい。

- ・ 受け入れる事が出来るようになったこと。

マレーシアの国民は随分とのんびりしていた。人は好いが時間にルーズで、授業が15分程度遅れるのは普通。後で連絡すると言ってそのまま忘れられていたり、決めたはずの予定がずるずると先延ばしになって後で突然変更されたりという事もあった。お蔭で思い通りに行かないことも、以前なら怒ってしまっていたことも、それを受け入れて次を見ることが出来るようになった。

・二つの価値観を持てるようになったこと。

マレーシア留学を経て、自分の中に二つの視点を持つことが出来るようになった。物事を見るとき、考えるとき、日本ではこうだろう、マレーシアではこうだろうと常に比較する癖がつき、この人はこのように話しているが、他の人の立場ではどうなのか、日本だけの話ではないのか等、広い視点から見る事で日本を出る前の画一的な基準による考え方から脱することが出来たと思う。

最後に

多くの方の惜しみない協力、暖かな助言と不思議な縁に恵まれてこの留学をする事が出来た。何度も相談に乗ってもらった雷先生、MJITへの留学を受け入れ、励ましてくださった杉浦先生、日々の小さな事まで気に掛け、お世話して下さった岩本先生。留学生活を支えてくれた現地職員の方々、親切なバディ、陽気で騒がしい新たな友人たちに、感謝の言葉を持ってこの連載を終わりとさせて頂きたい。

Terima kasih.

終 小倉



このような記事を書かせて頂く機会を与えて頂いたことに感謝を。毎週この留学記を書かせて頂いた事で、常に日本とマレーシアを比較する目を持って日々を過ごすことが出来た。こ

の経験はマレーシアをより深く知り、また自分の意見を言葉にすることで考えをまとめる事に繋がった。